

¡Hola, amigos!

第091号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝04:00時から08:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年12月23日 カァディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは090号(12月16日)、089号(12月09日)

088号(12月02日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



今週号 No. 091 (2005年・第52週) 12月23日更新

「ホセとマリィア」の巻



今年もあと一週間余になり、あわただしい日々を過ごしておいでと思います。年末になるとデパートや大型スーパーの人出が多くなるのはここでも同じです。特にオモチャ売り場の賑わいが目立ちます。けれども音に関しては大違いで、賛美歌が静かに流れる程度です。日本で感じたあの歳末のセカラシさはひよっとしたらジングルベルのせいじゃあなかろうかと思うくらい。

クリスマス・ツリーも殆ど見かけません。かわって、ベレン belén とかナシミエント nacimiento と呼ばれるキリスト降誕の場面を表現した人形飾りが主流です。

上の写真の白いネオンもその一つですが、この人形飾りはデパートや大きな商店のウィンドウに1月6日の公現祭までずっと飾られています。

冬でも暖かいこの辺では樅の木より椰子の木のほうが似合いではありますが、勿論この人形飾りはカトリックの国の伝統で、気候の問題は関係ないでしょう。

冬至の今、空が白むのは8時過ぎ、浜に日が差し始めるのは9時過ぎです。そして日没は18時09分。夏至の頃は何時何分だったかハッキリ記憶していませんが、確か22時直前だったはず、その時は夏時間でしたから実質的な時間差は2時間45分位でしょうか。日が沈む方角は丁度部屋の真正面、南西で、夏至の頃、殆ど真西に沈んでいたのに較べると約45度ずれてきました。



午後は部屋の中に日が差し込んで暑いくらいになります。日没前1時間ぐらいはこの写真のように台所まで直射です。暑さ寒さの変化より、部屋への日の入り具合のほうに、もっと季節の移り変わりを感じます。

部屋の向きと造りも具合良く、夏の真昼はベランダの敷居より中には日が射さず、寒くなる時期には部屋一杯に差し込んでまことに有難い。これまでの部屋の中の最低気温は16度で、居間では朝晩だけ、寝室では明け方だけ電熱オイル・ヒーターをごく

弱く掛けています。晴れてなおかつ風が当たらない限り、お昼はベランダで・・・。

部屋の中よりそのほうがポカポカと暖かい。当然、セルベサも旨くなるわけ。



これが夏至の頃の日没。ベランダに出ないとこの様子は見れなかったのに、冬至の今は台所からでも見れる。大きな違いです。

*

さて今日のタイトル、ホセ José はスペインにはとても多い男子の名前。マリィア María は同様に女性に多い名前で、日本の太郎と花子と言ってもいいでしょう。太字の部分にアクセントがあります。ホセは例えばカルメンのドン・ホセだし、マリィアはマリア様とおんなじ。なお、ホセは愛称ペペで呼ばれることが多いようです。最近ではもう太郎や花子は多い名前とは言えないと思いますが、スペインのホセとマリィアはとても多く、私達が現実に見知っている人たちでもこの名前の人はかなりいます。それどころか、私達自身がホセとマリィアになってしまったのです。

この町で一年を過ごし、散歩の途中でも声を掛け合う人が増えたということを前にお話ししましたね。そのうちの一人、旧市街を歩いていて道の角で出会い頭にぶつかりそうになった相手、そしてその数十分後に今度は車道をはさんで出会ってそれ以後挨拶を交わすようになった相手、コイツにはその後も私達の住んでいる近くで頻繁に出

くわすことが多かったのです。

その度に、オーラ・アミーゴと握手してはいたんですが、イツまでもアミーゴじゃ芸がないと思い、この間又パセオ・マリティモ(海岸遊歩道)で会った時、名前はなんて言うの?と聞きました。彼はマノロ(Manolo=マヌエル Manuel の愛称)だそうで、私

達も自己紹介しました。

そしたらコイツの言うことには、いやいやアミーゴ、アンタはホセ、そしてセニョーラはマリィア。聞きなれない日本語の名前をソレも二つ同時じゃトテモうまく言えない、だから俺はアンタ達をホセ、マリィアと呼ぶことにする、イイダロ?とヌカスんですねー。以来私達はコイツにかかってはホセとマリィアになってしまいました。

まあ、名前なんて単なる符牒だ、何でもいいさ。

彼はスペイン人特有の濃い顔つきではなく、どちらかと言うとイタさんのムード、こざっぱりしていてとてもニコヤカです。年は40半ばぐらいか? 私達がマノロに出会う時間帯はコレまで昼間に限られていました。それは最近私達が夜あまり出歩かないことにもよるでしょうが、それにしても、昼間出会うときの彼の風体からも仕事時

間内とは到底思えないし、勤め人にも見えません。

或る時はパンを買って帰る途中で、その旨いパンをどこで買えるか教えてくれたり、或る時は通りがかりのバルにいて、セルベサのコパを持ったまま出てきて声を掛けてきたり。その殆どが昼前後に集中していたように思います。ということは午後か夕方

から始める仕事でしょうね。品のいいポン引きか、ドスのきかないデカか?

先日、Nが夕方の買い物に出た時、マリィーア! と声が飛んでキョロキョロしたら通りの向こうをマノロが歩いていた、と驚いて帰ってきました。Nもマリィアの気になっていたんですね。こうなると私達は二人ともあちこちでキョロキョロすることになってしまうかも知れない。なぜって、ホセーッ! マリィーア! なんて呼び声は

街のそこいらでしょっちゅう聞こえてますからね。***

「レングアド」の巻

旧市街にある総合市営市場へは約4キロ、海岸遊歩道をノンビリ歩いて4～50分。夏は陽射しをさえぎるものがない道なので閉口ですが、距離的には往復歩くといい運動になるので、涼しくなったらはカナリ頻繁に通っています。

けれども、寒くなってマグロ屋フェルナンドの店も低調になってきました。市場へ行く度に覗くんですが、このところずっといいモノが出ていません。ここでのいいマグロの出盛りは初夏なんです。

だいいち、フェルナンド本人も店にいないことが多くて、相棒が（彼もフェルナンドという同じ名前なんです）一人で店番してることが多い。でも、私達が手を出しそうなイイモノがあるときは大抵フェルナンドも店に出ています。多分そういう日は一匹解体したばかりの日なんでしょうね。

それにしても、最近低調の日が続いています。この間も覗いたらトロはキレッパシだけしかなくて、しょうがないプランチャでもするかと、ソレ頂戴と言ったら、アッ、コレはダメ、コンナのはダメよ。鮭やサシミでしか食べないと思ってるんですね。

いやいや大丈夫、ア・ラ・プランチャ a la plancha=鉄板焼き、にするんだよ。アア、ソレナラ、と渡してくれましたが、お金は要らない、って言うんです。こんなペケーニョ pequeño=ちっぽけ、なのにお金取れないヨ。

まあ、私達は買うとなったらいつも1キロ以上の皮付きブロックだし、この店にとって私達はいいいサクラになってんじゃないかな？ あの店は、マグロをナマで食べるハポネスでさえ買いに来るんだからイイモノ置いてるに違いないってね。

イヤイヤそんなこと言っちゃいけない、これはフェルナンドの純粋な友情と受け取らなくちゃーね。ありがとー、また来るよー。

帰って秤にかけたら二つで350グラムもあって、二人の晩酌のオカズには十分。脂もしつこくない程度にのっついて、ちょっと筋があるけど焼いちまえば問題ナーイ。

ありがとネ、フェルナンド。今日は塩・胡椒でアツン・ア・ラ・プランチャ。



その後もあまりいいものが出ていません。どうやら春まで待たないとダメかな？でも折角市場まで行ったのに手ぶらで帰るのもシャクだし、周りの魚屋をぐるっと回ることになります。

今までスペインの魚にはあまりいい印象を持っていなかったけどソレは最初の頃ずっとハズレばかりだったからで、カアデイスに引っ越してからはぽつぽつマトモなものにも当たるようになっていきます。その一つがイワシであり、アンコウであり、そしてレングアド、舌平目です。

lenguado と書きます。英語のタン tongue に相当する言葉レングア lengua の派生語です。レングアは、舌、舌状のもの、言語、などの意味で、レングアドは舌平目です。ところが英語では普通、舌平目というと sole ソール=靴底になってしまうのが面白い。もっとも英語にもタンフィッシュ tonguefish という単語もありますが、一般的にはソールでしょう。特に料理の素材名としてはソーみたいですね。

この市場には魚屋だけで94軒がひしめいていますが、夫々得意の商品があり、同じモノを売っているようでも微妙に違います。値段の幅も相当な開きがあります。



これがそのレングアド。これを置いている店だけでも20軒はあるでしょう。その中でどの店のを買うか、市場の中をぐるぐる回って品定めです。勿論値段の比較も。或る店の調子のよさそうなオヤジが私達の顔を見ると、1キロ4ユーロ！と声を掛けてきました。見ると値札はキロ6ユーロになっています。舌平目の箱はもう半分ぐらいになっていて早く処分してしまいたかったんですね。

じゃあ、4枚頂戴。すると、4枚だとキロ当たり6ユーロだよ、1キロ買えば4ユーロ、そのほうが得だよ、と言うんです。1キロで何枚あるのかなー？ 5枚か6枚だね。じゃ、1キロ。テナやり取りがあって買ったのがこれ。結局大中小取り混ぜで6枚ありました。数で買われるとカタの揃ったものだけ捌けてしまうのでオヤジが自分で魚を選んでキロ単位で売ってしまいたかったんですね。

私達はカタが少々不ぞろいでも偶数なら満足、しかもうまく大中小2枚ずつにしてくれてました。市場や個人商店で買い物をする人たちはこういう対面販売でのやり取り自体をも楽しんでいるんでしょうね。私達も少しずつそれに慣れてきました。マズ頭をとって、皮をむいて、上の大きいのはムニエル、中小は一塩して風干し。



さて今夜のメニューは？ メイン・ディッシュは舌平目のムニエル、ニンジンとポテトのグラッセ添え。青みは勿論シラントロ（コリアンダー）、ライムをたっぷり。縁側が骨までパリパリ食べれるから、このくらいこんがり焼いたのが好きです。ミバは悪いからレストランではこんなに焼いてくれない。縁側の旨さは味わえませんね。

向こうの赤はカタルーニャ産。魚に赤かって？ナンだっていいんです、合えばOK。仕切り皿の手前は、パン・デ・ソーハ（大豆パン）のオリーブ油揚げ。原型はコッペ・パンのような形で、真ん中のいいところは普通に切ってシナモンのオリーブ油を少したらずと最高。これは食べ残りの冷凍を揚げたもの。サクツとして香ばしくて赤のアテには抜群。主食？そんなものありませんよ、強いて言えば赤がそれ。命の水。

右のグリーン濃いのはいつか紹介したピミエント・パドロン。ピリッと辛味が効いたスペイン版獅子唐の炒め物。時々ピリッと、どころではないとんでもなく辛いのが混じっていてスリル満点。ルシアン・ルーレット、なんて言う奴もいます。そして、アセイツーナス7粒。全部赤との相性は申し分なし。ナニ、全体に脂っぽい？ ダイジョーブ。Cさんは烏龍茶が脂を流すと言ってますが、コッチは赤がオリーブ油を流してくれると信じてます。何の根拠もないけどね。ラードよりゃましだゼイ。***

「冬の散歩道」の巻

晴れた日の日中は、せっせと歩いているとどんどん暑くなって一枚脱ぎ二枚脱ぎで結局Tシャツだけになってしまいますが、足元はさすがに裸足と言うわけにはいかず、

最近の浜歩きはスニーカー履きです。勿論もう短パンはなし。

こうなると砂浜を歩く快感は半減、チョコもプルポも捕まえられません。

なんと言っても砂浜の散歩は天気が良くて風がソウ強くないことが絶対条件。冬はどうしてもドンヨリの日があるし、ピーカンに晴れた日は冷たい西風の日が多いので、

浜以外の散歩道へ逃げる機会も多くなります



こんな風に晴れ上がって、なおかつ風も穏やかな日はなんと言っても浜歩きが一番。たとえイカ・タコが取れなくてもこの浜を歩く気分の良さはナニモノにも代え難い。



ところが、同じ晴れの日でも西風の強く吹いている日はやっぱり大西洋直面ではチョット厳しい、そういう日は内海に面したこの遊歩道へ逃げます。

椰子の葉が右になびいているでしょう？ この写真は北北西に向いて撮っていますから、この日はまさに西風が吹き荒れているんです。でもこの内海即ちカアディス湾は白波一つなく静かなもんです。

ここでは、平日でも天気の悪い日でも、大勢の釣師が竿を構えています。でもこの内海即ちカアディス湾は白波一つなく静かなもんです。でも、大勢釣りに来ているんだから何か釣れることは確かなんでしょね。

この遊歩道は新市街の湾岸沿いに約1.5キロ、まっすぐ伸びています。その一番南の端までウチから約1キロ強です。そして反対側、北の端、この写真の向うの端に私達のお気に入りの大型スーパーがあります。今週の冒頭の写真がその正面入り口。このスーパーを目指して行く往復5キロのこの散歩は浜歩きとは一味違う楽しい散歩道です。4フロアの地上階の半分だけがスーパー、後は全部デパートになっていて床面積が広いから店の中で歩く距離も2キロぐらいはアツという間です。



天気はいいけど東風が強い日、言い換えると内湾側から外海に向けて吹き出す日、こういう日はやっぱり前側の海岸遊歩道がいい。浜は砂が飛んであまり快適ではないから、ビルの陰で風が当たらない遊歩道がベスト・コースになります。

こういう日は遊歩道を歩いて市営市場まで片道約4キロを往復します。正面にカテドラルが見えますね。市場はカテドラルの少し左、二基のクレーンがあるあたりです。この写真のへんで丁度道半ば。

冬の浜はやっぱり人が少なくていい。こんないい天気の日で引き潮時なのに浜には誰もいませんね。夏ならこのあたりはごった返しているんです。

前の項でも言いましたが、この道を歩いて市場までというのは夏場は朝のうちだけ、午後は暑くてオハナシになりません。だから夏の市場通いは往きは歩き、魚を買った帰りは専らバスです。この7番の市内バスは始発から終点まで常に海岸遊歩道沿いに走る路線で、観光バス顔負け。85銭でカァデイスの外海側海岸線を殆ど全部走ります。このバスの始発点は前に紹介した古城サンタ・カタリィナ近く、そして終点はウチから200メートルあるかなしの四つ星ホテル前で便利この上なし。



夏には来ないモウ一つの散歩道がここ、カアディスでは唯一と言っていい海岸砂丘の緑地。緑地と言ったって木らしい木はなくて背丈ほどの灌木がチラホラ。あとはこの程度の草地ですが、私達が見る限りコレこそがカアディスで他には見られない100%自然の緑です。

市当局がそのことをどれだけ認識しているのか不明ですが、特にこの自然の緑地を保護している風でもありません。このボードウォークも自然保護のためではなく、駐車場から浜に出る人の便利を図るだけが目的でしょう。夏、ここは暑くて、虫がいて、
トテモ散歩などする気にはなれません。靴も履かなきゃなんないしね。

このササヤカな自然もじっくり見るとなかなか面白い。私達は去年の冬もここによく来ましたが、草地に分け入って静かに聴いていると何種類かの小鳥が囀っているのが聞こえますし、時折姿もみえます。セキレイの仲間らしいのが尻尾を振っているし、

その他日本では見かけない小鳥も一杯います。

アッ、ウサギの糞だ。野うさぎもいるのかな？と思ってよく見たら、野草の黒い実が
散らばっていたり。



ボードウォークの小屋の風見。エステ este, オエステ oeste, スール sur, ノルテ norte, 東西南北。頭文字が英語と違うのはオエステ=ウエスト west だけ。



浜を歩く人は多いけれど、この草地を歩いている人と出会った事はありません。ここを歩いているのは殆ど私達だけみたいです。



草地に続く、細かい砂が強風に吹き寄せられて出来た砂丘。



サハラ砂漠？ いえいえ、ホンの小さな砂山です。人が来ない所だからこの通り。



この季節ならではの青い海、蒼い空。



渚の水の色も澄み切って、夏の濁った水とは大違い。



夏の間、禁止事項になっていた浜や海での色々な遊び、例えばウィンド・サーフィンやパラ・サーフィンなどの各種サーフィン、サッカー、釣、自転車、なんと呼ぶのか正式名は知らないけれど砂の上をパラシュートで滑るローラーボード、などなど、土日ともなると冬の浜遊びが盛んです。

乗馬もその一つ。先週号でも出てきたサンルーカル・デ・バラメーダと言う町は浜競馬が盛んなところですが、浜の砂質から言えばカァディスのほうがずっと良馬場だと思いますが、カァディスはこの砂浜の良さで人が呼べるから競馬なんかやろうとしても反対されるでしょうね。馬もこうしてノンビリ散歩のほうがいいに違いない。

浜での禁止事項の看板はなくなりましたが、犬禁止の立て札は相変わらず浜のあちこちに立っています。誰もこんな札気にしてる人はないでしょうが、気のせいかな最近、愛犬の落とし物の後始末をしている人をちよくちよく見かけるようになりました。

立て札の効果がこういう形で出たのなら大成功。スペインではこれまでついぞ見かけなかった光景です、あのイギリス人だってスペインではやりっぱなしですからねー。札を立てろと指示した人がこの効果を狙ったのだとしたらアッタマイナー。***
